

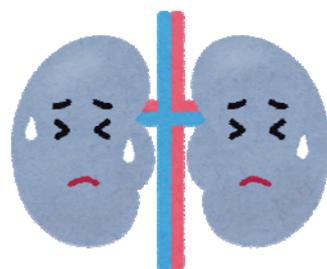
### そろそろ予防の時期になります

こんにちは。ワンちゃん、ネコちゃんの混合ワクチンの接種はお済みですか？ワクチンは終生免疫ではないため、年1回の接種が必要です。発病すると非常に死亡率の高い感染症もあります。ワクチン接種によって、病気にかかりにくい強い身体を作りましょう。

また、初めてワクチンを接種する子は初年度に2~3回のワクチン接種が必要になります。副作用も出やすいため当院では、午前中の接種をおススメします。

### 知っておきたい腎臓のこと

- ① 老廃物の排泄
- ② 水分の調整
- ③ 電解質(ミネラル)のバランス調節
- ④ 酸塩基平衡のバランス調整
- ⑤ 造血ホルモンの分泌
- ⑥ 血圧の調整
- ⑦ ビタミンDの活性化



### 気を付けておきたい腎臓のこと

腎臓は、血液中の老廃物をろ過・除去して尿をつくり、体内の水分調節をするという働きをしています。

しかし、血液中の老廃物が蓄積されたり、老化による機能の低下により、様々な病気を発症します。

### 代表的な腎臓の病気

#### • 尿石症

尿石症とは、尿管、膀胱・尿道に結石が存在する事により、血尿や膀胱炎の原因となる病気です。

結石が出来るのは遺伝的な体質による影響もありますが、尿路感染や水・フードの成分による原因もあります。猫は、犬に比べて尿石症が多く、水をあまり飲まなくなる寒い時期は、特に濃縮されやすく結石ができやすい状況になるため注意が必要です。



#### • 慢性腎臓病

慢性腎臓病は、様々な原因により腎臓の機能が長期にわたり低下している状態です。特に犬の場合は、慢性腎臓病になっても症状が現れにくく、気が付いた時には深刻な状態という事もあります。

症状としては、嘔吐、下痢、多飲、多尿、食欲不振、元気消失、体重減少、脱水症状、そして呼吸状況の悪化などがみられます。

状態が、悪化するとケイレン、昏睡に陥ります。

一度、慢性腎臓病にかかってしまうと、**一度障害を受けた所は元には戻りません。**

決定的な治療法がないため、早期発見による食事管理と治療により、腎臓の働きを助け、病気の進行を遅らせる必要が出てきます。

完治する事はありませんが、お薬やご飯などで状態をコントロールする事は出来ます。

## 尿について、気にかけてみましょう！

生活環境など様々な事が理由で変わる事もありますが尿は、腎臓の状態を表しています。色や臭い、量、回数など毎日記録する必要はありませんが、時々気にするようにしましょう。

## 定期的に尿検査を受けましょう！

どんな病気に対してもいえますが、腎臓病についても早期発見・治療が大事になります。

尿検査では、尿の色や臭いだけでなく、尿糖、尿比重など腎臓の状態が色々わかるものです。

定期的に尿検査を受ける事で、病気を悪化する前に見つけられます。

**一度、ダメージを受けた箇所が治らない腎臓だからこそ、尿検査が大事なものになります。**



※猫の飼主様へ

尿検査を受ける際、尿を採る事が難しいという声をよく聞きます。尿は、病院で採る事が出来ますので、お気軽にご相談下さい。

**「肝腎」という言葉があるように、「肝」臓と「腎」臓は、体の中で大事な働きをする臓器です。**

**犬や猫が自分で管理できない分、しっかり管理して守ってあげましょう。**

